

REPORT.1

近畿日本鉄道



新型一般車両8A系。

新型一般車両8A系にみる 子ども連れにやさしい鉄道車両

近鉄の伝統を引き継ぐ色合いと、新味のある八角形の造形が特徴の新型一般車両「8A系」は、子育て世代の意見を取り入れながら生まれた。「やさしば」をはじめ、これまでにない発想を形にした8A系から、子育てにやさしい鉄道車両のあり方を考える。

取材・文●井上瑤子／撮影●織本知之／写真画像提供●近畿日本鉄道株式会社



車両中央の扉付近に2カ所ある緑色のスペースが「やさしば」。やさしさを共有できる「やさしい場所」と「芝生」の意味が掛けられたネーミングである。

子育て世代の声から生まれた
デザイン

2024年10月7日、近畿日本鉄道は24年ぶりの新型一般車両となる「8A系」の運行を開始した。この車両の画期的な特徴といえるのが、1両に2カ所ずつ設置された「やさしば」の導入である。「やさしば」は、ベビーカーや大型荷物を置いても気兼ねなく座れるスペースで、他の一般座席と同様に誰でも利用できるが、積極的な利用を想定しているターゲットに、子育て世代が含まれる。

8A系の開発に初期から携わった技術管理部（車両）の喜多陽平課長は、「2016年から、昭和40年代に造られた車両の代替となる次の一般車両のあり方について社内議論が始まりました。お客様にとって乗りやすい・住みやすい沿線であり続けるために、次の一般車両では子育て世代へのアプローチが必要であると当時から考えていました」と開発経緯を振り返る。

課題を具体的なデザインに落とし込むため、2019年に実施したのが、自社の車両車庫に多様な利用客を集め、一般車両の中で良い点・悪い点について直接意見を聞く取り組みである。

「このリサーチで、ベビーカー利用のお客様が『他の乗客の邪魔になっているのではないかと気にされていることがわかりました。インバウンド需要が増大していた時期でもあり、次の

一般車両ではベビーカーや大型荷物を気兼ねなく置ける場所をつくる方針が見えました」（喜多課長）。

「やさしば」の利用状況と課題

車両製造メーカーや沿線出身のデザイナーと共に、子育て中の社員の意見も取り入れて検討した「やさしば」は、直角2面に背もたれが付いた緑色のシート横に大型荷物を置けるスペースを確保し、床面には芝生模様を配したユニークなデザインとなった。その利用状況について、喜多課長は「先日、ベビーカー利用のお客様が迷わず『やさしば』に向かい利用されているのを見て、認知されていることが実感できました。一方で、特に混雑時間帯以外に、お客様同士の遠慮から利用を控えるケースがあるようです。引き続き乗降扉上のディスプレイや、ステッカーで周知していきたい」と課題を示す。

長期的な「快適」を実現する設計

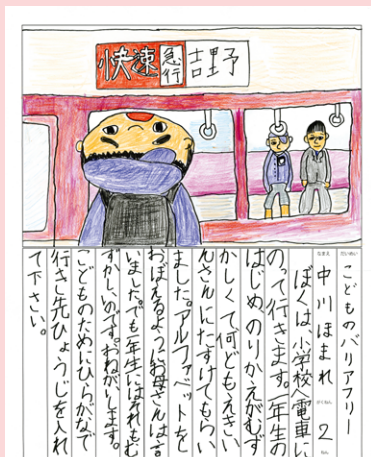
8A系の、もう一つの大きな特徴といえるのが「L/Cシート」だ。L



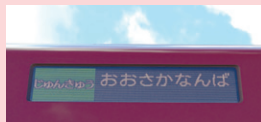
鉄道本部企画統括部
技術管理部（車両）

喜多陽平
Yohei KITA

子どもの声を反映した 「側面行先表示機」



近鉄では、日本民営鉄道協会が毎年開催している「新聞コンクール」の応募作品から「子どものためにひらがなで行き先ひょうじを入れて下さい」という小学生の声をキャッチ。8A系の側面行先表示器に、ローマ字・漢字表示と併せてひらがなの表示を取り入れた。



3 縦手すりだけでなく、背もたれにも手すりがあり子どもを抱いても安心して着席できる。4 「ベビーカー利用のお客様でしたら、このように赤ちゃんのお顔を見ながら乗車できます」と話す喜多課長。



1 「イラストがあると利用しやすい」というお客様の声から作成した、オリジナルピクトグラム入りのステッカー。



2 キャリーバッグなどのキャスターの一つを掛けることで転動防止になるストッパー。



上／お出かけに役立つ情報等を集めた『きんてつ旅育キャンペーン』特設サイト。左上／『ICカードで子ども半額』は、通塾利用等のお客様からも好評を得ている。左下／名阪間を走行し、観光利用も多い「特急ひのとり」の多目的トイレ。おむつ交換台や着替えスペースを装備（左）。ベンチスペースには大きな車窓があり、ちょっとした気分転換などにも利用できる（右）。

ロング、Cクロスを表し、一般座席のロングシート／クロスシートへの切り替えが可能な仕様になっている。現在（2024年12月時点）8A系は、平日はロングシート、休日は1両のうち一部をクロスシートとするように混雑状況に応じて転換する形で運用している。フレキシブルな仕様にした理由については「今後、沿線人口が減った際には、平日もクロスシートにしてお客様にゆったりと座ってほしいという想いがあります。しかし今はラッシュの時間帯もあり、それがどのタイミングになるかは想像が付きません。今後、一般車両を順次新型一般車両へと切り替えていきますが（※1）、先行投資で転換可能なシートにしておくことで、長期的に快適な乗車環境を提供したい」（喜多課長）という。

なお、「やさしば」は2方向で座れるため、一般座席がクロスシートとなる場合でも、乗客が互いに視線が干渉しづらい方を向いて座ることができる。

路線網を生かし「旅育」にも注力

近畿・東海の2府3県をまたがる広大な路線網と、沿線に自然や歴史に触れられる数多くのスポットを有する近鉄では、鉄道を通じた「旅育」（※2）の重要性も認識している。

営業企画部の山北航大氏は「当社沿線の魅力的な観光スポットをエリア別に紹介するウェブサイトを運営してい



鉄道本部企画統括部
営業企画部

山北航大
Kodai YAMAKITA

「人口減少が目に見えているなかで、いかに沿線のお客様に留まっていたか、違う沿線の方にも住みたいと思ってもらえる沿線にしていくな。そのために、現在子育てをされている方だけでなく、将来子育てをされる方にもいい鉄道であると思っていたく必要があり」喜多課長が語るように、近鉄ではハード・ソフト両面における柔軟かつ長期的な取り組みで、子どもと子育て世代の利用をバックアップしていく。

ますが、今後それらを、子育て世代の方にとってより使い勝手の良いものにしていく必要があります。例えば、エリア別だけでなく、『室内で身体を動かしたい』『歴史を学びたい』というように、状況や目的に応じソートをかけた検索ができるようにするなど、子育て世代の方に便利なサイトにできるよう工夫していきたい」と語る。

また、旅育推進のために実施中の『ICカードで子ども半額』や、全線100円で乗り放題となる『きんてつきつぱす』（祝日に随時実施）など、小学生以下を対象にした利用促進企画にも長期的に取り組む方針だ。

※1 8A系は既に奈良線、京都線、橿原線、天理線に48両の投入を完了し、2025年度には68両（奈良線、京都線、橿原線、天理線、大阪線、名古屋線、南大阪線）の投入を予定している。

※2 旅を通して、知力・判断力・想像力などの能力や知的好奇心を高め、豊かにしていくこと。